

カテゴリー 自然

活動名称 礼文島リボンプロジェクト

ルート名称 宗谷シーニックバイウェイ(れぶんアツモリロード)

①活動概要

「とかちイエローリボンプロジェクト」をモチーフに、シーニックバイウェイに積極的に参画する行政としての果たすべき役割の一つとして、地域の「くらしや産業」とマッチングが良く又、持続可能な取り組みとしての「礼文島リボンプロジェクト」を企画し実行した。バッジ購入という単純なアクションを通じて、誰もが参加できる活動を目指した。

②活動の体制

行動する行政としての礼文町を核とした情報発信を不断に行いながら、町内においては監視員や観光案内所員の協力による販売、花ガイドによるPR、観光協会HPによる情報発信を行った他、ハートランドフェリーや札幌第1合同庁舎でのポスター掲示を通じた協力体制をしいた。

③苦労した点や工夫した点

「環境と観光」というこれまで mismatch とされていたものを、バッジ購入というアクションを通じてマッチングの良いものとしていくことや、地域産業の根っこである礼文島の自然環境の重要性を、これまでの行政手法からのイノベーションの必要性と併せて説明した。また、このプロジェクトを作成中の「礼文町生物多様性地域戦略」のアクションプランに組み入れることにより、内外ともに町が継続的に取り組むものとして発信した。

④活動の効果

当初2,000個販売予定が約3,000個販売という参加となったことから、町では「礼文町いきものつながり基金」として積み立てることや、活動を支援するための「礼文島いきものつながりプロジェクト助成金」の創設に動いている。

⑤今後の活動予定等

23年度の「アツモリリボン」に次いで、24年度では「ウスユキリボン」の製作を進めている。



様式2 (★指定・候補ルート共通)

ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2011

ルート名	宗谷シーニックバイウエイ (れぶんアツモリロード)
活動の名称	礼文島リボンプロジェクト
活動期間	22年度～25年度
評価の視点 ※相当すると思 われるものに○ (複数選択可)	①活動の持続性、②活動の地域への浸透・波及、 ③ルート運営の基盤強化、④ブランド形成・活用、 ⑤人材育成の充実 ⑥その他シーニックバイウエイ北海道の推進への寄与
<p>1. アピールポイント</p> <p>◆大切なこととして</p> <p>「ヒントをシーニックの中に見つけ出した行政の取り組みであること」</p> <p>礼文島の類まれな地域資源である「自然環境」を地域のために活用する手段を検討中に、シーニックバイウエイ全道フォーラムの中で展示されていた「とちイェローリボンプロジェクト」をモチーフに、ルートに参加する行政として取り組むテーマとして礼文島タイプにカスタマイズし実行した。</p> <p>「宗谷シーニックバイウエイのテーマである「環境・観光」に沿ったこと」</p> <p>環境と観光という一見相反するテーマを「リボン」という可視化出来るもので結びつけることにより、リボン購入というアクションを通じて購入者も又、プロジェクトへの積極的な参加者であるという自覚の萌芽や、何より「礼文FAN」としての高いステータスが育まれる企画として取り組んだ。</p> <p>「取り組んでいる者が楽しいと思えるように努力したこと」</p> <p>礼文町行政のトップであり「まずは島に良いと思うことをやってみる」ことを提唱している小野町長に購入第1号をお願いしたことにより、各種会議の際にバッチをつけてもらうことにより外向けの発信が出来た。参加する行政として町内の関係イベントで積極的に販売活動をしたことや、花ガイドなどへの協力依頼の効果が現れて来たことにより、主として販売をした監視員や案内所担当が、始めは取り組みに消極的であったが、楽しさを感じられるようになった。</p> <p>◆成果としては</p> <p>「まずはスタートよし！」</p> <p>当初は2,000個販売が限界と考えていたが3,000個を超える販売となった。</p> <p>「取り組みがステップアップした」</p> <p>バッチの販売金を「礼文町いきものつながり基金」に積むことや、環境への取り組みを支援するための「礼文島いきものつながりプロジェクト助成金」が創設されたことで、取り組みがよりクリアに可視化できるようになったことや、24年度は新版として「ウスユキリボン」の製作が進むなどステップアップしていること。</p>	

2. 創意工夫、苦勞した点

□ **フライホイールの必要性を重視したこと**

弾みのある取り組みとしていく上では、スタートには人・知恵・財源が必要となり、車で言うところのフライホイールがなくてはエンジンがかからない。リボンプロジェクトは「環境保護は投資しても経済成長には期待できない」或いは、「誰が買うのだ?」「自然保護なんて」という、概念を取り払うために町長始め財政担当への説明を行った。

□ **周りの動きと調和する取り組みに配慮したこと**

札文町が策定している「生物多様性地域戦略」のアクションプランに組み入れたことにより、単発の取り組みではないものとし且つ、関係雑誌への掲載など持続する取り組みとして外向きの情報発信を行った。